
第 361 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2017 年 5 月 17 日(水) 17 時 30 分~19 時 00 分

場 所: 創立 30 年記念棟 3 階 大会議室(常念岳)

演 者: 岩田 雅裕 氏

(カンボジアプノンペン国際大学・教授)

フリーランス顎顔面口腔外科医)

タイトル: アジア口腔外科医療現場からみた日本の医療

私は日本での口腔外科診療を行いながら、カンボジアを中心に、中国、スリランカ、フィリピン、ラオス、ミャンマー、ブータンなど世界の多くの国で無償医療支援活動を行ってきた。その活動の中で多くのことを教えられ、学ぶことができている。

カンボジアは 1970 年から始まった内戦による国土の疲弊、そして 1975 年からのポル・ポト派による独裁政治、クメール・ルージュ……。知識層である医師、教師らの大半は虐殺された。4 年間のポル・ポト派の支配が終わった 1979 年には、約 4000 人いた医師はたった 40 人しか残っていない。私が活動を始めたのは政治的に落ち着きを取り戻し始めた 2000 年、カンボジアは世界最貧困国、医療レベル最低国であり、当時はカンボジアの口腔外科医療は、内戦により壊滅した状態のままであった。大変貧しい国であり、どうしても命に直接影響がある診療科から整備されていくのは仕方が無いことであった。私は現在までシエムリアップで年 3~4 回 1 週間滞在、プノンペンで年 2 回、唇裂口蓋裂や他の顎顔面口腔外科手術を行っている。カンボジアで 2016 年までに行った手術は 1649 症例で、そのうち、唇裂口蓋裂手術 47%、腫瘍手術 30%、顔面骨骨折 9%、耳鼻科手術 8%、顎関節手術 4% である。カンボジアでの顎顔面領域手術は、唇裂口蓋裂以外はほとんど私がカンボジア人スタッフと手探り状態で始めたものである。やっと診察、診断、手術計画の流れが軌道に乗ってきたところである。活動で最も重要なのは継続である。

私が 20 年あまりの海外での医療活動、医療現場を見てきた経験から、海外の医療事情、医療支援の現場を紹介するとともに、日本の医療の良い点、問題点をお話し、日本の歯科医療を再考する場にしたい。海外の医療現場に興味のある方々はもちろん、日本の医療を考えてみたい方々、すぐには臨床に生かせる話ではないが、考え方、生き方を考え直す機会になればと考える。

略 歴

1986年 岡山大学歯学部卒業
1988年 岡山大学口腔外科助手
1994年 広島市民病院歯科口腔外科部長
1998年 カナダアルバータ州立大学留学
2006年 岸和田徳洲会病院顎顔面口腔外科部長
2013年 フリーランス顎顔面口腔外科医

岡山大学博士(歯学)
カンボジアプノンペン国際大学教授
ラオス国立大学招聘教授
インディアナ大学歯学部教授
インディアナ大学医学部主任特任講師
宇治徳洲会病院
岩手医科大学歯学部非常勤講師
奈良県立医科大学非常勤講師
中京大学工学部非常勤講師
口腔外科専門医・国際口腔顎顔面外科専門医
小児口腔外科学会指導医・認定医
顎顔面インプラント学会指導医
日本小児口腔外科学会評議員
日本有病者歯科医療学会評議員
カンボジア口腔インプラント学会顧問

担当:硬組織疾患制御再建学講座 岡藤範正